

## 第10回千葉支部学術集会

学術集会会長：東邦大学医療センター佐倉病院副院長 加藤良二

第10回千葉支部学術集会を2011年3月5日(土)東邦大学医療センター佐倉病院講堂で開催させて頂きました。会員、一般を含めて185名が参加されました。テーマは「ストップ ザ・医療崩壊」としました。世界に誇れる日本の医療が風前の灯火にあることを広く医療関係者以外にも御理解頂いた上で、医療に携わる全ての人を支える力になって欲しく企画しました。

一般演題は、看護管理・チーム医療4題、地域連携・他4題、病院経営・他5題、人材育成・他4題と幅広く活発な討論が行われました。

特別講演は、医療問題について数多くの著書を執筆されている亀田総合病院副院長の小松秀樹氏に「医療再生への戦略」と題して講演頂きました。

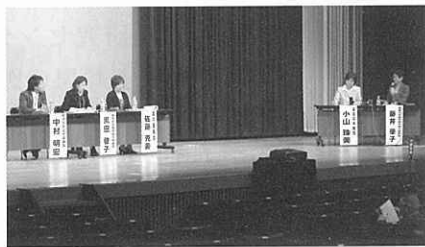
今回の特別企画として、ストップ ザ・医療崩壊ー未来に向けてーと題してパネルディスカッションを設けました。白井厚治氏(東邦大学医療センター佐倉病院内科教授、前病院長)、志津雄一郎氏(印旛市群医師会理事)、小西洋之氏(民主党参議院議員)、本田宏氏(埼玉県済生会栗橋病院副院長)、蒔田覚氏(仁邦法律事務所弁護士)と様々な業種からの演者に加えて、特別講演の小松秀樹氏にも参加頂いて「朝までナマ討論」の如き激論を展開して頂きました。

枝葉末節にこだわらず本来の良い医療を行うために、将来に向けてみんなで今何をすべきか、参加者にとっては最後まで興味深く、時間を延長しての有意義な会となりました。御支援、御協力に感謝申し上げ開催報告とさせていただきます。

## 第10回神奈川支部学術集会

当番世話人：東海大学医学部付属病院副院長 高木繁治

2011年3月5日(土)、伊勢原市民文化会館で第10回神奈川支部学術集会を開催し、約320名の参加を頂きました。メインテーマ



会場風景

を「チャレンジする心、将来の医療を見据えてー満足のための医療のためにー」として、平塚市病院事業管理者の別所隆先生から特別講演「病院のトップマネジメントはどうあるべきかー病院事業管理者になって考えるー」、済生会若草病院副診療部長の佐藤靖郎先生から教育講演「がんの地域連携、問題点と今後」をいただき、高木が基調講演「脳卒中の地域連携、問題点と今後」を行いました。またパネル4題、口演は予定を大幅に上回る53題、ポスター発表11題、クリティカルパス展示4題に加えて市民公開講座、神奈川支

部としては今回が初めてのランチョンセミナーも行いました。天候にも恵まれ、医療の質の向上、医療安全、効率性、医療連携など医療現場の重要な点を議論するという当初の目的は十分に達成されたと考えております。

## 第10回香川支部学術集会

学術集会会長：労働者健康福祉機構香川労災病院副院長

藤本俊一郎



会場風景

2011年3月5日(土)、第10回香川支部学術集会を丸亀市民会館 中ホールで開催し、206名の参加がありました。本学術集会はテーマとして「チームで提供する良質な医療」とし、

一般演題を募集し、49題の一般口演がありました。ランチョンセミナーは北美原クリニック理事長 岡田晋吾先生に「開業医から見たより良い地域連携～がん診療、在宅栄養管理を中心に～」を、特別講演は綾川町国民健康保険陶病院院長 大原昌樹先生に「在宅・施設と医療機関を結ぶ地域連携クリティカルパス～維持期病院の立場から～」をご講演いただきました。

今回はチーム医療を取り上げたこともあり職域を超えた発表と活発な討議が行われ、充実した学術集会でした。本会の開催にあたり関係各位の皆様にご多大なご支援に感謝を申し上げ、開催に報告とさせていただきます。

## 第11回福岡支部学術集会

世話人：九州大学病院総合診療科教授 林 純

第11回福岡支部学術集会の開催につきましては、前日に東日本大震災がおり、中止すべきか議論になりましたが、特に本会は医療の向上を目指すための会でもあり、開催すべきであると世話人会で決議されました。その決議をもって本会は2011年3月12日に九州大学医学部百年講堂で開催され、約150名が参加しました。テーマを「医療の安全と質を求めてーチームで目指す院内感染対策ー」として掲げ、シンポジウム、一般演題(口演)36題、クリティカルパス展示11題という内容で行われました。シンポジウムでは「チームで目指す院内感染対策」というテーマで4題、各病院での取り組みについて報告があり、一般演題は医療安全、医療情報、地域医療連携、職員教育、患者サービス・診療業務のセッションに分かれての報告でした。いずれの報告内容も興味深くまた充実していたこともあって、質問や討論が活発に行われ、そのため閉会式が30分遅れてしまいました。

今回の学術集会が盛会のうちに終了できましたことは、皆様のご尽力のお陰と思い、深く感謝申し上げます。